



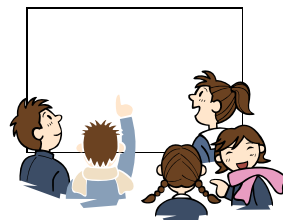
(1) 教育系大学院入試結果報告

昨年は早稲田大学教職大学院1名だけでしたが、今年は、下記の通り3人が5つの教育系大学院に合格しました。3人とも教員志望です。

A君(理科): 上越教育大学教職大学院と兵庫教育大学教職大学院に合格(上越に進学)

B君(理科): 筑波大学教育系大学院と東京学芸大学教職大学院に合格(筑波に進学)

C君(数学): 筑波大学教育系大学院に合格(進学)



学部卒業後すぐに教壇に立って実践を積むことも意義あることですが、教育系大学院に進学して教育の専門性を高めてから教員になるという選択肢もあります。いずれにしても生徒にとっていい教師になってほしいと思います。

(2) 一般企業で働いてから教員になろうと思っている人へ(情報提供)

結論から言えば、かなり大きな負担が待っています。その覚悟があるのかどうか、よく自分と相談してください。卒業生Eさんが3年前の合格体験発表会で「企業で働きながら教探の勉強をするのは、とてつもなく大変です。皆さんにはお勧めしません!」と話していたことを未だに覚えています。Eさんは、4年生の5月に企業の内定をもらっていました。しかし、6月に教育実習に行き、最終日に生徒たちから寄せ書きをもらったり、一緒に集合写真を取ったりして、教師になりたいという気持ちが高まったとのこと。何よりも生徒との関わりが楽しかったそうです。そこで、Eさんは教育実習終了後すぐに翌年の教探に向け論文演習などを始めました。結局、3月に卒業するまでに30回以上論文添削を受けました。私はてっきり次の7月の教探を受験するものと思っていたのですが、Eさんからは連絡がありませんでした。合格体験会で後から知ったのですが、就職1年目は企業の仕事がとても忙しくて教探準備どころではなかったそうです。2年目も忙しさは変わりませんでした。あまり時間が経つと教探の論文力などが落ちてしまうと考え、受験することにしたそうです。Eさんによれば、毎日会社の帰りに電車の中でスタサフを使って勉強し、論文も書いていたそうです。その努力の結果見事1次試験に合格しましたが、2次試験直前に体調を崩してしまいました。Eさんは、1次試験に合格した今、ここで頑張らないと二度とチャンスは来ないと考え、痛みをこらえて2次の面接試験と論文試験を受験し、見事に合格を勝ち取りました。その翌年からEさんは、希望した通り県立高校で数学を教えています。Eさんは「企業を経験してから社会人枠で教探を目指そうとしていた自分が甘かった」と話していました。加えて、再任用制度ができたため、毎年定年退職する教員が減っています。つまり、新規採用の募集人数が年々減っていくということです。数年一般企業で働いてから教員になろうと思っている人は、これらの状況をよく分析しておく必要があると思います。

【教員経験者の独り言】「スゴイ人」

世の中には、いろいろな人がいます。いわゆる「本当にスゴイ人」というのは、どういう人でしょうか。「スゴイ」というのは「実力がある」という意味です。立場をカサに着て圧をかけてくる人でしょうか。強面の人でしょうか。声の大きい人でしょうか。何かと論破してくる人でしょうか。私の経験から判断する限り、その手の人は、たいしたことないです。強ぶっているだけです。周囲の人たちは、自分が異動させられたり対応が面倒だったり、トラブルになるのを避けているだけで決して尊敬してはいません。立場が代わったら誰も言うことを聞かなくなります。本当にスゴイ人は、圧がないどころか、極めて温和で聞き上手です。仕事においては、自分の仕事を後回しにして困っている人のために尽力します。そういう人は立場がどうであれ、周囲の人から慕われ、尊敬されています。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」とはよく言ったものです。「能ある鷹は爪を隠す」とも言いますね。本当にスゴイ人は、見かけは全く怖くないのです。職場の同僚や上司をよく見てごらんください。よく見てみると、スゴイ人は必ずいます。是非ともスゴイ人から多くのことを学んでほしいと思います。そして、近い将来、皆さん自身がスゴイ人になってくれることを願っています。

【合格論文の書き方 速習講座】

《はじめに》

シャープペンシルの芯の濃さは B 以上ですか？文字が薄いとそれだけで相当不利になりますよ。試験当日は、シャープペンと消しゴムを2つ以上ずつ用意してください。シャープペンの芯が詰まる、消しゴムが机から落ちるといふ最悪な事態を想定して準備するのが危機管理の基本です。論文試験中に芯の詰まったシャープペンを分解しているようでは・・・



《前文の書き方》

① まずは、抽象題又は複数の内容を含むキーワードかどうかの判断が重要。

★問題のキーワードが抽象的だったり、複数の意味をもっていたりするときは、必ず内容を絞って焦点化します。

そのときは、本文の2つの柱を意識してください。重要なことは、制限時間内に合格論文を書くことです。つまり、前文を書く段階で柱1以下本文の内容を踏まえていることが合格のための第一歩です。

例○私は、教師の使命とは、どの生徒に対してもその個性を十分伸ばすことであると考え。

→キーワードは教師の使命です。このことについて何を書いてもいいのですが、この人は「個性の伸長」という内容に絞って論文を展開しようとしています。OKです。

○私は、生きる力の中でも、思考力・判断力・表現力などの確かな学力が極めて重要と考える。

→キーワードは生きる力です。生きる力とは、知・徳・体のバランスのとれた力のことなので、中身が多過ぎます。そこで、「思考力・判断力・表現力などの確かな学力（知）」に絞ったわけです。もちろん OK です。この人は、恐らく「思考力・判断力・表現力」について過去に練習して添削を受けて自信を持っているでしょう。自分の得意なキーワードにもって行くという姿勢は成功するカギです。

○主体的・対話的で深い学びを実現できる授業力をもち、地域から信頼される教師が、私の理想の教師である。

→理想の教師も何でもありの内容ですから、「理想の教師」という単語のまま書いたのでは、読み手には何を言っているのか伝わりません。数学的に言えば、定義しないまま「理想の教師」という単語を使っているからです。ここで、もう一つポイントがあります。この人は、理想の教師を「授業力」と「地域から信頼される教師」と定義しています。どう定義しようと自由ですが、明らかに柱1の「学習指導の工夫」と柱2の「社会に開かれた教育課程の推進」を意識した定義になっています。ここに論文力の高さを感じます。前文を書くときは、必ず2つの柱を意識してください。

★上記のように前文で焦点化したり定義したりした場合は、問題のキーワードは、本文中（柱1・2）には出てきません。それは当然です。言い換えたのですから。では、いつ出てくるかと言えば、「まとめ」の最後です。この点にも気を付けてください。

② 前文で「問題のキーワードが何故重要なのか」をどのように書くか。

★自分の独りよがりの理由ではなく、公的な根拠である方が説得力があります。

例○他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めることは、生徒が大人になって生きていく上で極めて重要である。

→間違ったことは書いてないですが、なぜ大人になって生きていく上で重要なかがはっきりしません。つまり、独りよがりの書き方になっています。

○他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めることは、生徒が（地球規模で）これからの持続可能な社会を創造する上で極めて重要である。

→似た書き方ですが、「持続可能な社会」は中教審答申や学習指導要領のキーワードなので、独りよがりではありません。と同時に、中教審や学習指導要領を見ていることをちらつかせる効果もあります。SDGs など国際的な要素が含まれるときは「地球規模で」を入れると更に効果的でしょう。

★「これらを育成することは、教員の使命である」は当たり前なので、書かない方がいいです。ここで余計な文字数を使ってしまい、策を書く文字数がなくなることが多いです。逆に、もし後で行数が余りそうになったら、策を一つ余計に書けば済みます。

③ 前文の「残念な現状」を書くとき。

★残念な現状を書くとき、否定的な内容は、断定しないで柔らかく書きます。かつ、具体的に！

例○しかし残念ながら現状は、板書中心の講義的な授業が多い。これでは、・・・

→板書中心の講義的な授業を全面否定しているし、「あなたは日本中の学校見て来た上で多いと言っているのですか」というツッコミが入ります。講義的な授業が悪いわけではありません。それだけしかないのが問題なのです。

○しかし残念ながら現状は、ともすれば板書中心の講義的な授業になりがちで、・・・と聞く（学習ボランティア校で見た）。

→ここまで柔らかく、全面否定にならないように書けば、「確かにそういう学校もあるだろう」となります。
例○しかし残念ながら現状は、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めることができない生徒が多いと聞く。

→抽象的で何を言っているのか分かりません。ただ、キーワードを公式に当てはめて書いてだけです。制限時間内に論文を書き上げるためには、ある程度自分の論文の型を決め、公式化できる部分は規格化して時短を図ることは重要です。しかし、意味を考えず、やみくもに型に入れても合格論文にはなりません。要注意です！

④ 前文の最後の段落

★前文の最後の段落は、論文の結論（自分の策を考える視点と決意）を書くのです。

一言で言うと、論文問題に対する解答は、前文だけで終わっているのです。つまり、前文で書く3つの内容：

(1) 問題のキーワードが何故重要なのか。

(2) しかし、残念ながら現実はどううまくいっていない。

(3) だから私は、中学校（高等学校）数学（理科）教員として、学習指導と社会に開かれた教育課程の視点から〇〇を実現する。

これだけで、問題の解答になっています。ただ、これは要点だけなので、(3)について柱1以下で詳しく説明するのです。柱1で学習指導の工夫によって問題のキーワードの実現が可能であるということを、同様に、柱2では社会に開かれた教育課程を推進すればOKだということを自分の体験（例）を踏まえて説明するのが本文です。そして、「まとめ」で改めて前文の最終段落に書いた決意を強調するとともに、自分の理想や夢を紹介して、理想や夢を実現したいから教員になるんだという志望理由をアピールします。小金井方式の「論・例・策」論文はこのような構造になっています。だから、どんなテーマに対しても同じように書けるのです。この構造を理解しなければ、何十回添削を受けても論文力は上がりません。皆さんは、大丈夫でしょうか。期待していますよ。ちなみに、この書き方は、校長試験などでも使えます。25年後に思い出してください。



《本文の書き方》

⑤ 柱の文言

★柱の文言は、柱1「・・・学習指導の工夫」、柱2「・・・社会に開かれた教育課程の推進」なので問題ないですが、注意してほしいことは「主語のねじれ」です。

例○他者の考えを理解するための学習指導の工夫

→主語がねじれているのに気が付きましたか？学習指導を工夫するのは教員です。でも、理解するのは生徒です。この表現では、「教員が理解するための・・・」という意味になってしまいます。

○他者の考えを理解させるための学習指導の工夫

→これで主語が教員に統一されました。OKです。

○生徒が他者の考えを理解するための学習指導の工夫

→こうすれば理解する主語は生徒で、学習指導を工夫する主語は教員と明確になりました。それでもOKです。

⑥ 「論」の書き方

★「論」とは、柱1では「何故学習指導を工夫すれば柱のキーワードを実現できるのか？」という問いに対する答えを端的に述べたものです。柱2も同様で、キーワードと社会に開かれた教育課程との関係を一言で述べます。この「端的に」「一言で」というのがカギになります。キレのいい文で読み手を納得させなければなりません。そこで、小金井方式論文では公式を用意しました。

（公式：柱1）「授業は、・・・するための絶好の機会である。」

（公式：柱2）「生徒は、学校だけで育つわけではない。生徒の考えは、地域との関わりの中で広がり深まる」

恐らくこの公式で出題されたテーマの90%には対応できますが、柱2は微調整が必要ことがあります。

例○「・・・育つわけではない。生徒の学びは、地域との関わりの中で一層深まる。」（深い学び）

「・・・育つわけではない。生徒の表現力は、地域との関わりの中で一層確かなものとなる。」（表現力）

⑦ 「例」の書き方

★「例」とは、自分の体験です。教育実習でも学習ボランティアでも生徒のときのことでも構いません。重要なのは体験談の紹介ではなく、策①の前振りだということです。この体験から学んだことを生かして策①を実行するという書き方になります。当然、体験談は具体的かつ端的であることが重要です。原稿用紙で言うと3行～3行半以内には収めたいです。「自分が、いつ、何をして、何を学んだか」だけが書いてあれば十分です。また、どんな問題に対しても同じ体験で構いません。重要なのは、「柱のキーワードに寄せて書く」ということです。

★「例」で気を付けることは、柱1と柱2のいずれか一方の「例」は、「失敗体験から学んだ」という内容にする

ことです。何故なら、「うまくいきました」という体験ばかりでは説得力に欠けるからです。皆さんも友達から自慢話ばかり聞かされたら鼻につくでしょう。かといって、失敗体験ばかりでは暗くなります。合格した先輩たちの論文を見ていてうまい失敗談だと思ったのは、「初めはうまくいかなかったが、最後は希望が見えてきた」という書き方です。確かに失敗談なのですが、決して暗くならず、むしろ希望の光が見えています。Good!

【策の公式】「(体験談「自分が、いつ、何をして、何を学んだか」)。私は、この体験に学び、(策①)を行う。

⑧ 「策」の書き方

★上記のとおり、策①はその前の「例」が根拠になっていますから、ただ方策を1つ書くだけで十分です。策②は根拠となる体験を書けないので、「・・・を行い、(柱のキーワード)を実現する」と、少し補足が必要です。東京都を受験する人は、策③の後に価値付け「・・・と確信する。」「・・・と信ずる。」を書くので、単純に方策を3つ並べて大丈夫です。それ以外の自治体を受験する人は、策②の文末の書き方を工夫してください。

★もう一つ「策」で重要なことは、策①②③は完全に独立していなければならないということです。

例○策①：毎時間実験を行う。策②：実験の後にグループで話し合いをさせる。

→これでは「実験」がかぶっているため、策②ではなく、策①の補足に過ぎません。つまり、策が1つしかないということです。

例○授業でICTを活用し、生徒が考え判断する場面を増やす。(思考力・判断力)

→抽象的です。「ICTを活用」と書けばいいというものではありません。どう活用するのかという具体性が重要です。

例○関数や図形の単元でICTを活用し、生徒が考え判断する場面を増やす。(思考力・判断力)

→具体的に書くためには例を挙げるとよいでしょう。授業であれば、単元を挙げればOKです。

例○授業でグループ学習やペア学習を行い、生徒が考え判断する場面を増やす。(思考力・判断力)

→これも、グループ学習やペア学習をどのように行うのかを書いてほしいです。

例○解き方が複数ある問題や作問させる場面でグループ学習やペア学習を行い、・・・

★可能性としては低いですが、もし論文を書いていって規定の行数まで行かないかもしれないと思えるときは、柱2の策の一つ余分に書いてください。余分に書けば減点どころかむしろ評価は上がります。とはいえ、本当に行数が余ったのかどうか確認してください。柱1で策を1つしか書いてないとか、東京都の人は価値付けを忘れたとか、本来書くべきことが抜けているかもしれません。もし抜けていたら、消しゴムで消してはいけません！矢印で引っ張り出して余白に書いてください。縦書きでも構いません。字数はオーバーするかもしれませんが、その減点よりも書き損ねた減点の方が致命的です。

★逆に、行数が足りなくなりそうな場合は、(1)「価値付け」を削る(2)「例」を短くするで対応してください。その時、消しゴムを使ってはいけません。2本線で消します(見え消し)。見た目は悪いですが、消しゴムで消してから書き直す時間はありません。私は、この方法で管理職試験に合格しました。大丈夫です。

【論文要素の重要度】 前文>策>例>まとめ>論>>価値付け

【策の例】

柱1：○グループ学習・ペア学習 ○ICT 機器活用 ○実験を頻繁に行う ○日常生活に関連した教材の工夫

柱2：○職場体験 ○地域ボランティア ○近隣の学校や施設との連携 ○地域から講師を招いた講演会

《まとめの書き方》

★「まとめ」も小金井方式では公式化して時短を図っています。自分なりの「まとめ」の型(公式)を作っておいてください。合格者の「まとめ」から学ぶのもいいでしょう。

例○・・・する学校—これが私の理想とする学校である。私は、学習指導と社会に開かれた教育課程の視点から(柱のキーワード)を通して(問題のキーワード)を実現し、理想の学校をつくることに全力を傾注する。

○・・・する教師になること—これが私の夢である。私は、学習指導と社会に開かれた教育課程の視点から(柱のキーワード)を通して(問題のキーワード)を行い、夢を実現する覚悟である。

「まとめ」の条件：①教師としての夢・理想が書いてある。

②柱の文言が入っている。

③問題のキーワードが入っている。

④教師としての決意で強く締めてある。

★上記の④では①が夢なら夢、理想の学校なら理想の学校と表現を合わせてください。(整合性)

○5月臨時号に4年生向け論文直前講座を書いてあります。そちらも参考にしてください。先日、合格者の合格練習論文をメールで送りました。前文や論・例・策などの書き方で参考になるとと思います。いい点はどんどん真似をして、早く合格ライン(どんなテーマでも自信をもって書けるレベル)に達しましょう!

○論文も仕事もスポーツも慣れが必要です。理屈が分かっているもなかなか思うようには書けません。練習あるのみです。皆さんが、3月までに先輩のような論文の達人になることを期待しています。

